

クオン・ジへ『赤い絹風 呂敷』(前号で紹介)に設定された一六世紀初頭といえ、朝鮮は中宗(チュンジョン)の時代、一世を風靡した韓国歴史ドラマ「大長今(テジャングム)」で日本でのタイトル「宮廷女官 チャングムの誓い」の時代だ。

一五〇六年九月に、暴君で知られた燕山君(ヨンサンクン)を廃位追放し、燕山君の異母弟である晋城大君(チンソンテグン)が王位に即位した。これが中宗だ。テレビドラマでは幼いチャングムが晋城大君との連絡役に使われる。酒の甕を届けに晋城大君を訪ねて役目を果たしたチャングムは、その功が認められ宮中に上がることになる。ここから亡き母の意志である、最高尚宮(チェゴサンクン)になることを目指すサクセスストーリーが始まる。チャングムは政争に巻き込まれ



チャングムを演じたイ・ヨンエ

て身分を落とし、濟州島に流されたかと思つと、女医として成功して再び宮中に入り、王の主治医にまでなる。その間に恋あり、陰謀あり、熾烈な闘いありのジェットコースターの人生が展開される。主人公を演じたイ・ヨンエの人気と相まって高視聴率を得た。NHKでの数回の放映が終わっても民放で繰り返し放映されている。

このヒットで、日本ではそれまでまったく興味を持たれなかった朝鮮の前近代史に焦点があたり、次々に韓国歴史ドラマが放映されることになった。もちろんフィクションなのでそのまます実として受け入れられることはできない。チャングムは女性で王の主治医だったという史実以外は想像の産物だ。

だが歴史ドラマの一部は、一応歴史的事件をままえている。一三九二年に始まった朝鮮王朝は、歴史ドラマ「龍の涙」「世宗大王」「死宗(セジョン)となる李芳遠(イ・ヴァンウォン)中心のドラマとなっていて、第一王子の乱・第二王子の乱といった、日本で読む本では数行書かれただけの事

の太祖成桂(イ・ソンゲ)の威化(ウィファ)島回軍から、ハンゲル文字を作らせたことと有名な四代世宗(セジョン)までの壮大な物語だ。そだが、三代太宗(タンジョン)だ。ところが叔父の首陽大君(ヌヤンテグン)が勢力を拡大して、ついに一四五三年端宗の後見だった皇甫仁・金宗瑞と実弟の安平大君を肅正して権力を握る。これが世に言う「癸酉靖難」である。

名君として名高い四代世宗の後継文宗(ムンジョン)は短命で、その息子が幼くして王位に就いた。それが端宗(タンジョン)だ。ところが叔父の首陽大君(ヌヤンテグン)が勢力を拡大して、ついに一四五三年端宗の後見だった皇甫仁・金宗瑞と実弟の安平大君を肅正して権力を握る。これが世に言う「癸酉靖難」である。

事件は、日本で忠臣蔵が好まれるように韓国で人気がある。

と呼ばれる。その代表選手が韓明澮(ハン・ミョンフエ)で、この人は韓国史上の悪役である。世祖が死んだあと、韓明澮の娘を妃とする睿宗(イェジョン)が即位するが一年ちよつとで亡くなる。この頃には政治の中核は勲旧派が占めていて、王族は政治の中核から引き離されていた。次の九代成宗(ソンジョン)は、士林派と呼ばれる儒者の勢力を取り入れるようになり、勲旧派や外戚と士林派勢力の対立が始まる。チャングムの物語はこの時期から始まる。そして成宗の息子で、暴君として知られる燕山君のときにチャングムの両親は殺されるという設定だ。そして先に述べたように幼いチャングムの活躍で十一代中宗が王位に即く。ドラマの中でチャングムや恋人のミン・ジョンホと対立したオ・ギョモらの高級官僚たちは勲旧派である。腐敗官僚と急進的儒者勢力との対立の時代がチャングムの時代と言えよう。

次に王になる仁宗(インジョン)は、チャングムが王后から毒をもるように命合されるも拒否して救った王子だが、在位九ヶ月で死去し、文定(ムンジョン)王后の実子が十三代明宗(ミンジョン)となる。文定王后はドラマではチャングムを助ける聡明な女性として描かれるが、韓国史上では結構悪女として知られる。幼い明宗の後見として垂簾聴政をとり、親族を優遇した。この時代は義賊として知られる林巨正(イム・コックチョン)が活躍し、文定王后らは敵役である。

この林巨正や一枝梅(イルジメ)、張吉山(チャン・ギルサン)、洪景采(ホン・ギョンス)ら反逆者が韓国では愛される。腐敗した政権や権力層に対峙する革命家たちの姿は目映いものだ。洪命憲(ホン・ミョンフイ)の小説「林巨正」は朝鮮近代文学草創期の歴史的作品と言われる。孫の洪錫中(ホン・ソクチュン)は「ファン・ジニ」を書き(前号で紹介)、北朝鮮の作家として初めて韓国の文学賞を受賞した。昔懐映は「張吉山」を書いた。洪景采はテレビドラマになった権仁浩の「商道」にも登場する。映画「王の男」で美しさが話題になった美男俳優イ・ジュンギ主演のドラマ「一枝梅」の放送はまだ記憶に新しい。

第10回 チャングムの時代 —史実もドラマなみに面白い

六臣」「王と私」「大長今」などで順に迎えることができると言っても、わたし自身は「龍の涙」「王と私」などを所々観ているに過ぎない。

「龍の涙」は、朝鮮建国

件が詳細に描かれる。「王と私」でク・ヘンソン(韓国版「花より男子」の主人公役)が演じた廢妃尹氏(ソファ)は、「大長今」では、第一回に賜薬されて死んだ。そのとき殺す側の武官の一人にのちのチャングムの父親がいたという設定だった。このときが一四八二年。ここから四半世紀遡った一四五六年、世に言う死六臣事件が起きた。この

首陽大君は一四五五年端宗から王位を剽奪し自ら即位した。これが第七代世祖(セジョ)である。これに對して成三問(ソン・サムン)らは端宗の復位を企て、同調者を糾合した。一四五六年六月明国使臣の敏送の宴において世祖一派を処断しようとしたのだが、事前に洩れし、彼らは家族も含めて殺害される。これが死六臣事件のあらましだ。

さてこの事件で世祖に付いた功臣たちは「勲旧派」と呼ばれる。その代表選手が韓明澮(ハン・ミョンフエ)で、この人は韓国史上の悪役である。世祖が死んだあと、韓明澮の娘を妃とする睿宗(イェジョン)が即位するが一年ちよつとで亡くなる。この頃には政治の中核は勲旧派が占めていて、王族は政治の中核から引き離されていた。次の九代成宗(ソンジョン)は、士林派と呼ばれる儒者の勢力を取り入れるようになり、勲旧派や外戚と士林派勢力の対立が始まる。チャングムの物語はこの時期から始まる。そして成宗の息子で、暴君として知られる燕山君のときにチャングムの両親は殺されるという設定だ。そして先に述べたように幼いチャングムの活躍で十一代中宗が王位に即く。ドラマの中でチャングムや恋人のミン・ジョンホと対立したオ・ギョモらの高級官僚たちは勲旧派である。腐敗官僚と急進的儒者勢力との対立の時代がチャングムの時代と言えよう。

次に王になる仁宗(インジョン)は、チャングムが王后から毒をもるように命合されるも拒否して救った王子だが、在位九ヶ月で死去し、文定(ムンジョン)王后の実子が十三代明宗(ミンジョン)となる。文定王后はドラマではチャングムを助ける聡明な女性として描かれるが、韓国史上では結構悪女として知られる。幼い明宗の後見として垂簾聴政をとり、親族を優遇した。この時代は義賊として知られる林巨正(イム・コックチョン)が活躍し、文定王后らは敵役である。

「チャングム」の映画

行ったり来たり —不急順不同、起承転結なし (主に韓流)

林 浩治



文定王后役のパク・ジョンスク

文定王后は、日本で忠臣蔵が好まれるように韓国で人気がある。

と呼ばれる。その代表選手が韓明澮(ハン・ミョンフエ)で、この人は韓国史上の悪役である。世祖が死んだあと、韓明澮の娘を妃とする睿宗(イェジョン)が即位するが一年ちよつとで亡くなる。この頃には政治の中核は勲旧派が占めていて、王族は政治の中核から引き離されていた。次の九代成宗(ソンジョン)は、士林派と呼ばれる儒者の勢力を取り入れるようになり、勲旧派や外戚と士林派勢力の対立が始まる。チャングムの物語はこの時期から始まる。そして成宗の息子で、暴君として知られる燕山君のときにチャングムの両親は殺されるという設定だ。そして先に述べたように幼いチャングムの活躍で十一代中宗が王位に即く。ドラマの中でチャングムや恋人のミン・ジョンホと対立したオ・ギョモらの高級官僚たちは勲旧派である。腐敗官僚と急進的儒者勢力との対立の時代がチャングムの時代と言えよう。

次に王になる仁宗(インジョン)は、チャングムが王后から毒をもるように命合されるも拒否して救った王子だが、在位九ヶ月で死去し、文定(ムンジョン)王后の実子が十三代明宗(ミンジョン)となる。文定王后はドラマではチャングムを助ける聡明な女性として描かれるが、韓国史上では結構悪女として知られる。幼い明宗の後見として垂簾聴政をとり、親族を優遇した。この時代は義賊として知られる林巨正(イム・コックチョン)が活躍し、文定王后らは敵役である。